

第5学年〇組 体育科学習指導案



1 単元名 ボール運動（サッカー）

2 単元について

（1）運動の特性

①一般的特性

サッカーは2つのチームが攻守入り交じり、手を用いなくてパスやドリブルなどでボールを運び、相手のゴールにシュートをして得点を競い合っ楽しむゴール型の運動である。またゲームにおいては、チームでの攻防の役割を分担し、作戦をたて楽しむことができる。

②児童からみた特性

児童にとっては、バスケットボールやドッジボールなどで使い慣れている手ではなく、主に足を用いるため、思い通りにボールを扱うことが難しい運動である。しかし、パスやドリブルでボールをつなぎ、相手の守りをかわしてシュートを決めたときの喜びがとても大きく、仲間と協力して役割や作戦を考えたり、かけ声や指示をだし合ったりしながら楽しく行える運動でもある。

（2）児童の実態（男子 ■■■名、女子 ■■■名、計 ■■■名）

事前にアンケート調査を行った。結果は以下の通りである。

□情意面□

	質問事項	はい	ふつう	いいえ
1	体育の学習は好きですか。	■■■名（71%）	■名（18%）	■（11%）
2	サッカーは好きですか。	■■■名（26%）	■名（24%）	■■■名（50%）
3	テレビでサッカー中継をみますか。	■名（24%）		■■■名（76%）
4	サッカーをしていて「うれしかったとき・楽しかったとき」はどんなときですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・蹴ってボールがとんだとき ・ゴールを決めたとき ・試合で勝ったとき ・相手のボールをとったとき ・ドリブルで相手を抜いたとき ・自分のところにボールがきたとき ・たくさん試合ができたとき 		
5	サッカーをしていて「つまらなかったとき、楽しくなかったとき」はどんなときですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・負けたとき ・ボールに触れなかったとき ・ミスしたときに文句を言われたとき ・うまい人が一人でやってしまうとき ・点をとられたとき ・パスが回らないとき ・シュートが入らないとき 		

□技能面□

	できる	できない
対人パス：正確に蹴る	人（53%）	人（47%）
対人パス：強くパス蹴る	人（11%）	人（89%）
ドリブル：正確にドリブルをする	人（29%）	人（71%）
ドリブル：速くドリブルをする	人（16%）	人（74%）
シュート：正確にシュートする	人（39%）	人（61%）
シュート：強くシュートする	人（29%）	人（71%）
トラップ：浮いたボールをとめる	人（39%）	人（61%）

<考察>

本学級は男子 名、女子 名と女子の方が男子に比べて倍以上人数が多い。そのため、男子と女子で好む遊び（運動）に大きな偏りが見られる。男子はサッカークラブや野球クラブに所属している児童が多いため、ボールを使った遊び（運動）を好むが、女子は大縄やフラフープといった、色々な技に挑戦する遊び（運動）を多く行っている。昼休みに鬼ごっこやドッチビーなどで一緒に遊ぶこともあるが、遊び（運動）に対する、基本的な価値観に違いを感じる。

5年生の体育の授業ではソフトボールやマット運動、リレーなどを学習した。ソフトボールでは「たくさん打つ」ことをめあてに学習を行った。個人の技能を向上させるための場を多く設定することで、児童たち全員が意欲的に取り組むことができた。また、基礎技能を高めることで、作戦を立てたり、チームの課題を解決するための練習を考えたりすることが自然とできるようになってきた。マット運動では倒立前転や伸膝後転などの技に積極的に挑戦し、習得した技を発表することに喜びを感じた児童が多くみられた。繰り返し練習することで、自信を持つことができる場面が増えている。

事前のアンケート結果から、体育の学習を好む児童が多い。しかし、サッカーをあまり好んでいない児童が多いことがわかる。その理由として、ボールを足で扱うという特性に対して苦手意識を持っていると考える。それを改善させるためには、ボールに触れる経験を多くし、慣れることで改善していくのではないかと考える。また、ドリブルやパス、シュートといったサッカーの基本技能を単に行うのではなく、ゲーム性を導入することで、楽しく学習に取り組めるのではないかと考える。パスでつないだゲームができるようになることが理想だが、まずはボールを失わないためのキープやドリブルの技能を高め、ボールを止めた後の判断をするための時間が確保できるようにしていきたい。

(3) 仮説とのかかわり

ドリル運動は主に、ボールに多く触れることをねらいとして行う。渋滞ドリブルやスペースみつけ、スピードチェンジは、あえて狭いゾーンで行うことによって、細かいボールタッチを意識させたり、顔を上げながらドリブルすることを習慣化させたりすることを意識させるのに効果的である。また、顔を上げてぶつからないようにするだけでなく、誰もいないスペースを探し出すことまで意識させたい。それができることによって、自分の位置や仲間の位置、相手の位置などを把握する能力が高まり、ボールを受けたときの判断がスムーズにできるようになると考える。また、インサイドやアウトサイド、足の裏など色々な場所でボールタッチをする機会を増やすことで、足でのボール感覚を養い、ボール扱いの技能が高まって行くことが期待できる。こういったドリル運動を繰り返し行うことで、足でボールを扱うことに慣れ、喜びや、楽しさといった感情がでてくると考える。

3 学習のねらい

<関心・意欲・態度>

- ・進んでゲームや試合に取り組み、サッカーを楽しむことができる。
- ・互いにルールやマナーを守って、安全に気をつけて運動することができる。
- ・チーム内で互いに協力し、励まし合いながら活動することができる。

<技能>

- ・状況に応じてボールをとめたり、シュートやパス、ドリブルを使って攻撃したりすることができる。
- ・攻守のポジションを理解し、防御の動きなどを身につけてゲームをすることができる。
- ・ルールを理解して、チームのめあてや作戦に応じた動きでゲームを行うことができる。

<学び方>

- ・チームの良さや課題に応じた作戦を立てたり、自分の役割を考えたりしてゲームに生かすことができる。
- ・作戦を成功させるための練習方法を選んだり、工夫したりして活動することができる。
- ・練習や試合を通して、チームの良さや課題、相手チームの特徴に気づき、次の計画に生かすことができる。

<安全>

- ・学習の場や運動の安全に気をつけて活動することができる。

4 単元計画（サッカー）時間配分（総時数315分 45分×7回）

段階	時配	学習内容	指導上の留意点（○） 評価（◆）	資料等
つ	45	○ オリエンテーション ・授業での約束やきまりを確認する。 ・学習のねらいや進め方を知り、学習の見通しを持つ。 ・サッカーのルールの確認をする。 ・審判の仕方を知る。 ・ドリル運動の内容を知る。 ・チーム編成と役割分担をする。	○時間計画を示し、学習の見通しを持たせる。 ○安全な学習の進め方を確認する。 ○学習を進める上での約束を確認する。 ○各チームの力が均等になるようにチーム編成をする。 ○チームの中で教え合い、認め合いができるように助言する。 ◆学習の内容を理解して取り組むことができる。	学習カード
か	×			
む	1	○ドリル運動の方法やポイントを整理し、実際に行う。	○ドリル運動を紹介する。 ○ドリル運動のポイントを確認し、実際に行いながら、児童が課題に意欲的に取り組めるよう助言する。 ◆ドリル運動の仕方を理解し、進んで取り組むことができる。	マーカー カラーコーン ドリル運動の道具

		ねらい1：ボールを捕られないようにしよう		
な	4 5	<p>○準備運動ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっぽとりゲーム ・ドリブルおにごっこ ・手つなぎおに ・ボール蹴り出し合いゲーム ・ボール型イスとりゲーム 	<p>○安全に配慮しているか確認する。</p> <p>○準備運動をかねた運動量を確保する。</p> <p>○相手に背中を見せない体の向きを身に付けさせる。</p> <p>○動きながら、顔を振って周囲の状況を把握できるようにする。</p>	<p>マーカ カラーコー ン ビブス ボール 笛 ストップウ オッチ</p>
	×	<p>○ドリル運動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋滞ドリブル ・スペースみつけ ・スピードチェンジ ・交換パス ・まねまねストップ ・ボールタッチ 	<p>○ボールを見ないで、顔を上げてドリブルできるようにする。</p> <p>○顔を上げて、空いているスペースを探すことを意識させる。</p> <p>○ドリブルしながら、周囲の状況を把握し、判断できるようにする。</p> <p>○色々な場所でボールタッチできるようにする。</p> <p>◆ドリル運動に意欲的に取り組むことができる。</p>	
1	2	<p>○1対1のボールキープゲーム段階を応じて行う。</p> <p>①手にもって奪い合い。</p> <p>②足でキープ（相手は手のみ）</p> <p>③お互いに足で行う。</p>	<p>○相手とボールの間に自分の体を入れることを確認する。</p> <p>○段階に応じてスモールステップで行う。</p> <p>◆ボールキープをすることができる。</p>	<p>マーカ カラーコー ン</p>
		<p>○1対1のラインゲーム 背中合わせからスタートする。 相手の陣地にボールをとめたらゴール。</p>	<p>○色々な児童と1対1ができるように場面設定を行う。</p> <p>○勝敗を記録し、動機付けを行う。</p>	<p>マーカ カラーコー ン</p>
		<p>○ボール争奪キープゲーム 3人1組でボールを奪い合う。</p>	<p>○1対1だけでなく、グループでの攻防を意識させる。</p> <p>◆グループのなかでボールキープすることができる。</p>	<p>マーカ カラーコー ン</p>
	本時 (3/7)	<p>○簡易ゲームを行う。 3対3のミニゲーム</p>	<p>○タスクゲームの中で行った技能がゲームでできるか確認する。</p>	<p>マーカ カラーコー ン ネット</p>

		ねらい2：パスをつなげて、チームでゲームをしよう		
な	4 5	<p>○準備運動ゲームをする。</p> <p>○ドリル運動を行う</p> <p>○パスゲームを行う。(3対1など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インサイドキック ・インステップキック ・アウトサイドキック ・インフロントキック ・ヒールキック 	<p>○安全に配慮しているか確認する。</p> <p>○技能が向上した児童を称賛し、より意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>○インサイドキックの蹴り方を確認する。</p> <p>○指先の使い方、軸足の置き方の確認をする。</p> <p>○正確性を追求する。</p> <p>◆色々なキックに挑戦することができる。</p>	<p>マーカー カラーコーン</p> <p>学習カード マーカー カラーコーン バー</p>
か	×	<p>○作戦を立てゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4対4のゲームを行う。 <p>ドリル運動やめあて練習の中で取り組んできたことが実戦で生かせるのかを確認する。</p>	<p>○ゲームの前に、作戦と役割分担の確認をさせる。</p> <p>○ルールを守って公正にゲームをしているか観察し、必要に応じて助言、称賛等していく。</p> <p>○ルール改正についても話し合わせる。</p> <p>◆パスをつないでゲームをすることができる。</p>	<p>学習カード</p>
2	2	<p>○試合を振り返り、次回への作戦を立てる。</p>	<p>○ゲームを振り返り、次回の試合への意欲を持って取り組めるようにする。</p> <p>○よかったところを認め、次の学習にも意欲を持って取り組めるようにする。</p> <p>◆作戦を工夫して、すすんでゲームに取り組むことができる。</p>	
ま と め	4 5 ×	<p>○ミニサッカー大会を行う。</p> <p>○サッカーの学習のまとめをする。</p>	<p>○励まし合い、教え合っているチームを称賛する。</p> <p>○ゲームに出ていない児童の役割分担を明確にする。</p> <p>◆協力してゲームをすることができる。</p>	<p>学習カード</p>

5 本時の指導（3／7）

（1）ねらい

<関心・意欲・態度>

- ・ルールやマナーを守り，ゲームを楽しもうとすることができる。
- ・チームで協力し合い，安全に気をつけて活動することができる。

<技能>

- ・状況に応じて，ドリブルやパスをつないで攻めることができる。
- ・チーム内で攻守の役割を分担し，状況に応じて判断して基礎技能が発揮できる。
- ・ルールを理解し，公平に審判をすることができる。

<学び方>

- ・チームで作戦を工夫してゲームすることができる。

<安全>

- ・学習の場や運動の安全に気をつけて活動することができる。

（2）展開

時配	学習内容	指導上の留意点（○） 評価（◆）	資料・用具
5	○しっぽとりゲームを行う。 時間内に何枚ビブスを捕れるか競争する。 相手のビブスを捕ったら返す。	○準備運動をかねて行う。 ○相手に背中を見せない体の向きを自然と身に付けさせる。 ◆かけひきや積極性などの変化をみる。	ビブス×38枚
10	○ドリル運動を行う。 一人ボール一個を持って、グリット内に集合する。 ①渋滞ドリブル 狭いゾーンの中でドリブルをする。 ②スペースみつけ 狭いゾーンの中で広い場所を見つける。 ③スピードチェンジ 狭いゾーンの中でスピードを変える。 ④交換パス 狭いゾーンの中でパス交換をする。 ⑤まねまねストップ 教師が指示した場所でボールを止める。 ⑥ボールタッチ 色々なボールフィーリングを行う。	○顔を上げてドリブルをすることを意識させる。 ○広く空いているスペースを探すことを意識させる。 ○同じリズムではなくスピードの変化を意識させる。 ○アイコンタクトを約束事とし、コミュニケーションをはかりながら行う。 ○常に教師側を意識させ、色々な場所でボールを止めることができるようにする。 ○インサイドやアウトサイド、足の裏など色々な場所でボールを扱う経験をさせる。 ◆ドリル運動に意欲的に取り組むことができる。	ボール×38個

5	○本時のめあてをつかむ。		
ボールを捕られないようにしましょう			
8	○タスクゲームを行う。 ・ 1対1の攻防 段階を応じて行う。 ①手にもって奪い合い。 ②足でキープ（相手は手のみ） ③お互いに足で行う。	○ボールと相手の間に体を入れることを意識させる。 ○段階に応じてスモールステップで行う。 ◆ボールキープができる。	ボール マーカー
14	○4ゴールゲーム 2人1組で2つのグループで行う。	○できる限り多くボールに触れることができるように指導する。 ○めあてにそったプレーを意識させる。 ○ボールキープを意識し、ボール失わないようにする。 ◆ルールを守り、協力してゲームを行うことができる。	ボール マーカー カラーコーン ビブス バー
3	○まとめをする。	○ゲームを振り返り、めあてに対して、取り組めたかを確認させる。 ○よかった点を取りあげ、称賛することにより、次への意欲づけをはかる。	学習カード

(3) 場の設定